



文字

小

標準

大

検索

×

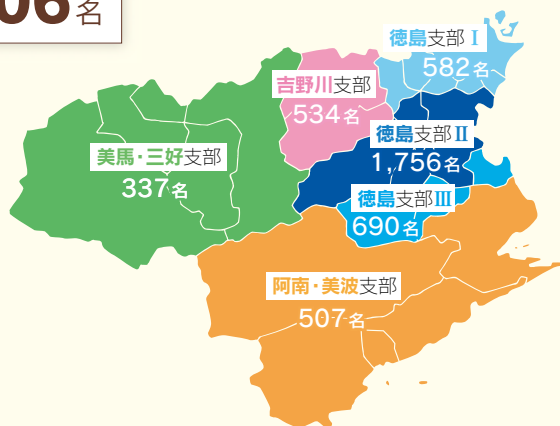
| ホーム | アクセス | お問い合わせ | プライバシーポリシー | サイトマップ |

公益社団法人
徳島県
看護協会HP
<http://www.toku-na.jp/>

あけまして
おめでとう
ございます



平成26年度
12/12 現在
会員数
4,406名



(スマートフォン対応)

CONTENTS

年頭挨拶	2
知事要望	2
受章おめでとうございます	2
職能委員会活動報告	3
支部活動報告	4
キラキラ新人さん	6
がん看護専門看護師活動紹介	7
第45回日本看護学会	8
「徳島県ナースセンター 出前就職ガイダンス2014」を開催	9
ワンポイントアドバイス No.24	9
火災や風水害等に遭われたとき	9
ワークショップ開催	10
医療安全管理者養成研修36名修了	10
各お知らせ	10
編集後記	10

Web 受講

協会ニュース「和」

日本看護協会

日本看護協会出版会

年頭挨拶

平成27年



会長 森山 節子

明けましておめでとうございます。お健やかに新年をお迎えのことと存じます。会員の皆様にはいつも協会活動にご協力いただき感謝申し上げます。

昨年は一大イベントでありました日本看護学会—慢性期看護—学術集会を会員総力挙げて取り組んでいただきました。学び多い盛況な学会となりました。無事終了することが出来多くのご協力いただいた関係者の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

昨年6月には「医療・介護総合確保推進法」が成立し、新たな財政支援制度（基金）の創設も決まりました。この法に則して、看護協会が取り組むべき事業について県に提案してきました。ほぼ提案どおりの事業について内示をいただき県議会の決定を待って執行出来ることとなりました。在宅医療・介護の推進、訪問看護師の確保や人材育成など具体的に取り組みを進めているところです。

昨年から建設を進めていた訪問看護ステーション海部が完成致しました。南部地区の在宅支援の一翼を担う拠点が整備されました。1月31日には開所式と記念フォーラムを計画しております。多くの方々のご来場をお待ちしております。

27年度は今までの研修事業を進めていくと共に、基金の事業や認定看護師育成支援の研修を推進したいと考えています。大きな変化の年ではありますが、会員の皆様と力を合わせて取り組んで参ります。今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

知事要望

公益社団法人
徳島県看護協会

- 1 長期療養の生活者を支える訪問看護等提供体制の整備
- 2 改正・看護師等の人材確保の促進に関する法律の施行に伴う離職者届出制度の推進
- 3 働き続けられる労働環境改善の推進
- 4 地域包括ケアシステムづくり等の推進
- 5 看護職の資質向上のための現任教育等の推進
- 6 看護基礎教育の充実



受章おめでとうございます

平成26年 秋の叙勲

公益財団法人 日本訪問看護財団 表彰



瑞宝単光章
亀山 陽代 様



吉野 牧子 様



伊達 朋子 様

活動報告

専門性の高い保健師
活動を目指して委員長
中瀬 明代

保健師職能委員会

保健師職能委員会では、専門性の向上と時代の要請に応じた活動を行うために、保健師自らが研鑽を積み、領域を越えた連携強化とネットワークの推進のために、保健師職能集会・研修会を開催しています。

今年度は「新任保健師を対象としたスキルアップ研修会」を、昨年度に引き続き開催し、自分の業務を研究の視点でまとめたものを文章化し学会等で発表することとしています。学会等で参加者の研修成果が見えることを期待しています。

また、平成26年10月25日には全国保健師長会徳島県支部との共催で、「第5回保健師の集い」を開催し、会社の保健室代表 徳永京子氏の「からだが動けば心も動く～マインド・フィットネス」をテーマとした講演の後、職能集会として本委員会の今年度の重点事業等活動報告し、活動への理解と会員拡大に向けての周知をおこないました。

また、今年度、管理期の保健師を対象とした研修会の開催も予定しています。

今後も専門性の高い保健活動を目指して、情報交換しながら、研鑽を積み領域を超えた連携とネットワークの推進に努めていきたいと考えています。

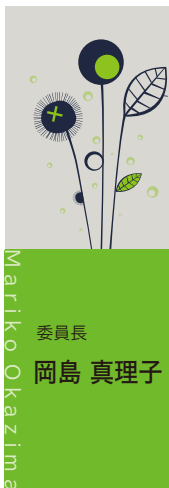
NEXT

EVENT



管理期の保健師を対象とした研修会

活動報告

助産実践能力強化と
その体制整備委員長
岡島 真理子

助産師職能委員会

全国助産師職能委員会では平成25年度より引き続き、すべての妊産褥婦と新生児に助産師のケアを提供することを目的に「安全で安心な妊娠・出産・育児環境の整備」を目標に掲げ活動しています。

その中のひとつである「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」レベルⅢ認証申請が本年8月より開始されます。助産師のクリニカルラダーⅢは自立した助産が行える能力のレベルであり、助産外来や院内助産が実施できる助産師をさします。徳島県ではひとりでも多くの助産師がこのレベルの認証が受けられるよう、昨年より「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」について日本看護協会理事の福井トシ子先生をお招きして研修会を実施するなど準備を進めてきました。2月22日には申請要件である「分娩監視モニタリング」の研修を予定しています。今後も申請に向けた研修会を計画していきますのでご参加よろしくお願いします。



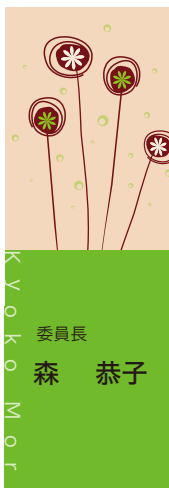
NEXT

EVENT



研修会「分娩監視モニタリング」

活動報告

看護職の専門性の強化
と労働環境づくり委員長
森 恭子

看護師職能委員会

国の医療政策は、「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へと転換され、病院で働く看護職には、今まで以上に地域における病院の役割を認識し、患者が地域で療養できるよう支援する役割が求められています。また、介護・福祉関係施設・在宅等領域で働く看護職には、地域全体を視野に入れた活動が必要とされており、地域をあげた看護人材の育成の仕組みも求められています。

看護師職能委員会では、病院領域と介護・福祉関係施設・在宅等領域で働く看護職の専門性の強化と労働環境改善、組織強化を事業計画にあげ活動しております。1月18日には、高齢者施設等で働く看護職を対象に、「高齢者の皮膚排泄ケアのポイント」というテーマで交流会を開催します。2月には、働き続けられる環境づくりの取り組みとして、「夜勤交代制勤務に関するガイドラインについて」の研修会を開催予定です。多くの看護職の皆様、交流会や研修会にご参加いただき、看護師職能委員会活動を知っていただくとともに、会員拡大につなげていきたいと考えております。ご協力よろしくお願いいたします。

NEXT

EVENT



交流会「高齢者の皮膚排泄ケアのポイント」

支部活動報告

徳島支部Ⅰ

支部長 日野出 裕美

徳島支部Ⅰ（鳴門・板野地区）では、支部活動の目的である地域住民の健康増進、福祉の向上を図るために支部Ⅱと協同で常設の「まちの保健室」を県立図書館で行っています。

また、地域で行われる「子どものまちフェスティバル」等に参加させてい

ただき、『ナースに変身コーナー』や『健康相談コーナー』を設け、地域住民の方々や子ども達とのふれあいを通して地域看護サービス（イベント事業）の活動を行っています。

施設交流会においては、施設間での情報共有やよりよい支部活動に向け

ての話し合い等、顔の見える関係づくりを通して地域連携強化の場ともなっています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



徳島支部Ⅱ

支部長 浅田 洋子

日頃より支部活動にご支援、ご協力を頂きありがとうございます。

徳島支部Ⅱは、徳島市、名西郡、佐那河内村と広範囲な地域を担当しております。

年4回開催している施設交流会では、10～13施設からの参加があり、地域住民の健康増進・福祉の向上を図るため、各種支部事業について活発な意見交換が行われています。

また、支部活動の目的である地域住民の健康増進を図るため徳島支部Ⅰと共同で「まちの保健室」を、徳島県立図書館1階において毎月第2・第4土曜日13時～16時まで開催してお

ります。どんなことでも気軽に誰もが相談できる、気軽に立ち寄れる場所として、多くの方にご利用いただいております。

そして、今年度は、イベント事業として「一日まちの保健室」の開催を2回計画いたしました。去る9月15日（敬老の日）に1回目をマルナカ徳島店で開催いたしました。今年度より、血圧測定等に加え歯科衛生士の方のご協

力で口臭チェック、歯に関する相談をはじめました。男女を問わず幅広い年齢層の方がチェックをしていかれました。

まちの保健室の活動を通して地域住民の方々健康づくりに務め、専門職として地域活動への参加により、地域との連携を深めて行きたいと考えております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



徳島支部Ⅲ

支部長 松崎 和代

徳島支部Ⅲ（小松島市・勝浦郡）では、事業計画として①施設交流会の開催②常設「まちの保健室」の運

営③ボランティア相談員の募集と育成④地域でのイベント事業などに取り組んでいます。

年三回の施設交流会では、10～11施設の参加があり、地域住民の方々の健康増進を図るため、事業内容の検討や情報交換を活発に行っております。また、阿南市ショッピングプラザ・アピカで毎月第2・4土曜日開催中の「まちの保健室」は、9月より店舗内場所移動を行い、健康相談の場として毎回30～50人の相談をお受けしております。

イベント事業では、5月9日（金）に小松島ショッピングセンター・ルピア店舗内で「一日まちの保健室」として

地域住民の方を対象に健康推進事業を開催いたしました。血圧・体脂肪・血管年齢・健康年齢を測定後と健康相談を実施し、延べ297名の方が参加されました。地域の方々の健康への関心は高く、毎年楽しみにご参加下さる方が多く、今年度も盛況に終わることが出来ました。また、10月16日には、看護の出前事業として、中学校へ出向き、生徒に「いのちの大切さ」や看護の役割について、話し合ったり体験する機会を提供しました。

今後も専門職として、地域に密着した活動を充実させていきたいと思っています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



阿南・美波支部

支部長 栗本 敬子

● 阿南・美波支部は阿南市・海部郡・那賀郡の地域を担当しており、毎年、事業計画を検討し、地域に密着した活動ができるように取り組んでいます。

現在の支部活動として、7月1日（火）に第1回施設交流会、6月17日（火）阿南市立椿町中学校と10月29日（水）阿南市立吉井小学校で、みんなで話そうー看護の出前授業「命の大切さ、こころとからだの話、胎児の発育過程、看護職への道、簡単な看護体験などについて」を実施しました。

また、11月19日（日）にみちの駅 公方の郷

なかがわに於いて、イベント「まちの保健室」を開催しました。みちの駅ということで県外からのバスツアーの方を含め、延べ128名の方に利用していただきました。みちの駅は、地域の方々もよく利用する生活に密着した場所であり、今回、健康チェックや健康相談、情報提供を通じて、健康に対する意識の強さを感じるとともに、関心の高

まうかがうことが出来ました。

今後も、計画中の支部活動を通じて、地域の方々の健康保持増進を図ると共に、小・中・高等学校にも出向き、いのちの大切さや看護の仕事、看護職への道などの提供を行い、看護職に興味をもていただけるように積極的に取り組んでいきたいと考えております。どうぞご協力よろしくお願いいたします。



● 吉野川支部（吉野川市・阿波市）では①施設交流会の開催②常設まちの保健室の運営③相談員の募集と育成④地域イベントとして思春期講座・一日まちの保健室⑤三職能との合同研修会を実施しています。

施設交流会は2回／年開催しています。支部の運営の話や災害・研修会等の情報交換をしています。

常設まちの保健室は都合により相談場所を脇町パルシーのセントラルコートからキョーエイ南西の入口に変更し実施しています。身近な健康相談の場となり、毎回利用してくれる方もいます。

思春期講座は6月14日に、『看護が元気をリレーする』をテーマに麻植協

同病院で高校生20人が参加しておこなわれました。「看護師さんの話だけでなく、助産師さんや保健師さんの体験や仕事の話が聞けて、命をつなぐ看護の仕事により興味がわきました」と好評でした。

一日にまちの保健室はH27年1月18日（日）に、阿波市防災交流会館の文化協会文化祭会場で実施します。お気軽にご利用ください。

今後も、看護職の専門性を活かした活動を通して地域住民の健

康増進・福祉の向上に努めていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



吉野川支部

支部長 矢部 公子

● 美馬・三好支部では、地域住民の健康増進・福祉の向上を図るために、地域に密着した事業の提供を行っています。

施設交流会は、年に3回開催しており、各施設から参加し、事業計画や情報交換を行うなど意見交換の場となっております。常設「まちの保健室」は脇町パルシー店側よりキョーエイ店側に変更して、血圧・体脂肪測定、健康相談を実施しています。また、三好市社会福祉大会に参加し、ささえ合うネットワークづくりをめざし、健康相談を実施しました。

各高校の文化祭では、保健展にて、看護コーナーを設け、進路相談や、血

圧測定の体験を通して看護師の仕事について考える場となり好評でした。今年度は、出前授業として、依頼のあった小学生や中学生に「いのちの大切さ」「看護師の仕事」について、授業を行い子供達とふれあう有意義な時間が持てました。

今後も、専門職として、地域住民の方々の健康づくりに貢献したいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。



美馬・三好支部

支部長 井口 和美



いつも笑顔で場を明るく和ませる
新人保健師・助産師・看護師さんの
内に秘めた思い、今年の抱負を
うかがいました。



保健師

工藤 愛

三好保健所

入職して1年半が過ぎました。1年目は毎日分からないことの連続でしたが、やさしくパワフルな先輩方の指導の下、担当業務以外にも学ぶ機会を多く設けて頂きました。私の担当業務は精神保健です。三好保健所管内では以前から高齢者の自殺率が高い状況が続いています。そこで昨年度から精神保健ボランティアさんと共同で「うつ病予防」の紙芝居を作成し、各地区で上映するといった地域に根付いた活動もしています。今後も日々勉強を重ね、感謝の気持ちを忘れることなく1人でも多くの住民さんの力になれるように頑張っていきたいと思います。



助産師

大久保 沙希

鳴門病院

入職して半年以上が経ち、先輩方や患者様の言葉に支えられ、少しずつ仕事にも慣れてきました。看護師・社会人としても未熟なことが多く、看護する責任の重さを日々実感しています。今年からは助産師として分娩介助や新生児に携わることになります。看護師として学んだことを活かし、今後は、母子の安全を第一に考え、寄り添ったケアができるよう知識・技術を習得し、日々努力していきたいと思っています。



看護師

阿部 祐紀

徳島赤十字ひのみね
総合療育センター

実習で、優しく温かい看護をされている姿に憧れてここで働きたいと思いました。

自分の思いを訴えられる方が少ないので、何気ない仕草や表情から思いを汲み取れるよう心掛けています。

また、施設で生活していても、その人らしい生きいきした毎日を送れるように、障害や病気だけをみるのではなく、一人ひとりを深く理解することが大切だと感じます。

これから看護師としてのスキルアップだけでなく、利用児者と深く関わり心に寄り添った看護ができるよう頑張りたいです。



看護師

安富 麻衣

徳島県立三好病院

看護師になり半年が過ぎました。まだまだ半人前で先輩方に助けてもらってばかりです。優しく、時に厳しく指導して下さる職場環境のなかで毎日楽しく仕事をしています。業務をこなすことに精一杯になりがちで、本当に看護ができているのだろうかと思うことがたくさんありますが、「ありがとう。お蔭で元気になりました」といった患者さんからの言葉に励まされ、また頑張ろうと元気づけられています。

確かな目・技術や判断力を持ち、患者さんの心に寄り添える看護師を目指し、一步ずつ確実に前に進んでいきたいと思っています。



看護師

酒井 志穂

阿波病院

入職して半年以上が経ち、職場には少しずつ馴染むことが出来ましたが、不安と緊張の毎日で、看護師として知識・技術のなさを実感しています。毎日、患者様・先輩方からたくさんの事を学ばせて頂き、学びを深めることができ充実した日々を送ることができています。

まだ、わからないことが多く迷惑をおかけすることがありますが、早く一人前の看護師になれるように、常に学ぶ姿勢を持ち、患者様やそのご家族のニーズに合った看護ができるように努力していきたいと思っています。



看護師

山本 多恵

徳島県立中央病院

入職して半年、この期間はとてもあっという間に過ぎていったように思います。振り返ると失敗もありましたが、毎日学びがあり、周りの先輩方や患者さんに育てて頂いた日々でした。また患者さんの死にも直面し、落ち込むこともありましたが。その経験を通して、看護師という仕事が改めて人生の中で一番大切な時に関わらせて頂いている仕事であるということを感じました。まだまだ未熟ですが、患者さんやご家族に喜んで頂ける看護師になれるよう努力していきます！

がん看護専門看護師活動紹介



徳島赤十字病院
がん看護専門看護師

町田 美佳



緩和ケアリンクナースも育成中です。看護師に対するがん看護教育と同時に、マニュアルや客観的ツールの活用を同時にシステム化することが、早期からの緩和ケアの推進・均てん化につながると考え、検討しています。

平成 26 年 4 月より、緩和ケア専従看護師として活動しています。解決困難な問題を抱える患者・家族に寄り添い、患者自らの力で意思決定ができるように支援することを大切にしています。具体的には、がん告知後の心理的ケアや家族間の倫理調整から、リンパ浮腫ケア、アロママッサージ等を実践しています。そして、がんサポートチーム（緩和ケアチーム）の窓口として、医療者誰からでもチーム介入の依頼・相談を受けています。疼痛コントロール困難事例や、精神症状に関して等、医師や薬剤師と連絡調整して対応し、週一回のチームカンファレンスを運営しています。患者・家族と、主治医チームとの目標達成のために、臨床心理士や理学療法士、管理栄養士など多職種によるチームサポートは欠かせません。患者が退院後に過ごす在宅を含む地域全体をチームと考えますと、今後は地域の病院や訪問看護事業所等との看看連携を進めていき、顔が見える関係となれるような企画をしていきたいです。

また、緩和ケアのスクリーニングを始めました。スクリーニングでピックアップした患者の全人的苦痛をアセスメントして、患者の苦痛の早期軽減に努めています。



徳島厚生連 阿南共栄病院
がん看護専門看護師

館 美加



私は 2011 年にがん看護専門看護師の認定をいただきました。まだ手探りですが活動を紹介させていただきます。

当院は、都道府県独自のがん診療連携推進病院であり、地域医療を中心に行っている病院です。その中で、外来や外来化学療法室、地域連携室、また緩和ケアチームでのメンバーとして仕事をしており、幅広いケア対象者の中にいるがん患者・家族を通して、専門看護師の役割を考え活動している現状です。

専門看護師は、ある意味“黒子”であると言われるます。まだまだ発展途上の段階ですが、専門看護師の仲間も少しずつ増えてきました。患者・家族のQOLの向上、そして看護の質の向上のため、自分自身の実践を含めた活動や存在、言動の意図、そのアウトカムを明確に意識した“黒子”を目指して行きたいと思っています。



徳島大学病院
がん看護専門看護師

三木 幸代



がん化学療法看護をサブスペシャリティとし、現在は主に外来化学療法室で多職種と協働しながら患者さんやご家族へのサポートを行っています。具体的には、専門的な知識とスキルを活かし、抗がん剤投与時の血管穿刺や複雑な症状マネジメント、さまざまな状況下での意思決定支援などです。常に患者さんの主体性と意思を尊重することを忘れず、患者さんやそのご家族が納得されているかという視点を大切に支援させていただいています。また、院内外での教育やスタッフからの相談にも対応するなど、スタッフが持てる力を発揮できるようリソースとしての役割も担っています。今後の課題として、最近では末梢神経障害に関する研究を行いました。まだエビデンスが確立していないケアへの研究に取り組み、がん患者さんの苦痛を緩和し QOL の向上に向け支援していきたいと考えています。

報告

第45回日本看護学会

アスティとくしま

第45回日本看護学会—慢性期看護—学術集会は、平成26年9月11日（木）・12日（金）にアスティとくしまにて開催し、二日間で2909名の参加があり、多くの皆様のご協力とご支援により盛会に終了いたしました。

日本看護学会は、平成26年度より10領域から7領域に統合・再編成されました。徳島県は新領域となって初めての慢性期看護の担当となり、メインテーマを決めるまでに森山会長を始め、学会準備委員の皆様の英知を集結し、「今こそ、看護のチカラ～人が人生をより良く生きるために～」と決定しました。

また、学会の広報として作成した阿波踊りと鳴門の渦をイメージしたポスターは、「徳島らしく」かつ「とても品が良く」、自画自賛ですが気に入っています。日本看護協会の方にも、評判が良いとお褒めの言葉を頂きました。

基調講演の河口てる子氏（日本赤十字北海道看護大学学長）の講演では、「共にあり 共に変わる ～慢性看護のあらたな展開に向けて～」ご講演を聞き、看護研究者と臨床看護師が共同で看護実践を可視化することの大切さを再認識しました。

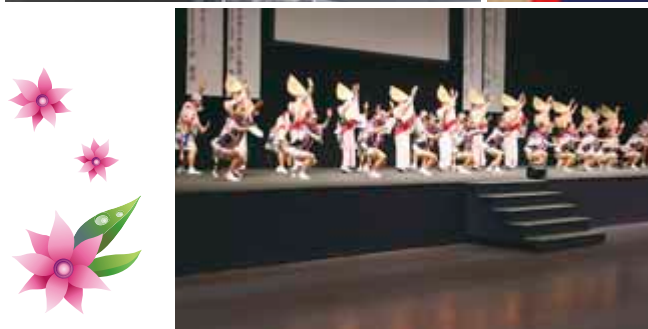
教育講演のテーマは、「連携・協働～総合医の育成を通して見えてきたこと～」と題して、谷憲治氏（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合診療医学分野教授）による講演でした。地方の大学での医師の育成を通して、地域・医療従事者間、地域住民といった様々な連携・協働の在り方を学びました。

シンポジウムは「慢性疾患をもって生きる人を支えるということ」と題して4人の講師が熱演され、立場が違う講師から多角的な情報を得ることができ、慢性期看護の将来に向けて、私たちが何をなすべきか示唆を得ました。

交流集会はどの会場も満席であり、発表者と参加者との熱心な意見交換が行われました。

最後に、全国の多くの皆様のご協力により、患者教育、自己管理、症状マネジメント、患者理解、退院支援、意思決定支援など、日頃の研究成果について、口演は113演題、示説は256演題の発表がありました。

学会準備委員を代表いたしまして、皆様のご協力とご支援により、無事に終えることができましたことを心からお礼申し上げます。



学会準備委員長

徳島大学病院副病院長・看護部長

木田 菊恵

「徳島県ナースセンター 出前就職ガイダンス2014」を開催

南部 11/13、11/22 西部 11/8、11/27

求職者が求人施設を訪問し、自分の目と耳で労働環境を確かめられる、また求人施設は現場で直接PRできる機会を提供する目的で、出前就職ガイダンスを実施いたしました。延べ54名の参加があり、「様々な働き方があり、再就職への参考になった。」「今後の進路決定に役立った。」など好評でした。また、求人施設の方からは、次年度も開催してほしいとの要望もありました。



訪問施設 一覧

●鴨島病院 ●訪問看護ステーション半田 ●三野田中病院 ●独) 徳島病院 ●医療法人鈴木内科 ●美摩病院
●美馬リハビリテーション病院 ●つるぎ町立半田病院 ●三加茂田中病院 ●徳島赤十字ひのみね総合療育センター
●徳島赤十字乳児院 ●国民健康保険 勝浦病院 ●岩城クリニック ●小松島病院 ●阿南名月苑 (阿南天満クリニック)
●訪問看護ステーション阿南 ●介護老人保健施設 ロイヤルケアセンター ●藤井病院 ●医療法人 医正会 原田病院

看護職のワークライフバランス(WLB)推進

ワークショップ開催

勤務環境改善
推進委員会

平成 26 年
9/28

ワークショップの参加施設は、田岡東病院・つるぎ町半田病院です。

今年度は、日本看護協会、ワークショップ事業を担当されている、小村様のご支援をいただき有効に進めることができました。まず「なぜ今、看護職のワークライフバランスなのか？ WLBを実現するため5つのステップ、現状を知る『看護職のWLB インデックス調査』データ分析のポイント、ベンチマークの活用」等について理解を深め、KJ法による現状分析・アクションプラン作成に結びました。参加者による、活発な討議は、「みんなで職場を改善したい」という熱き思いが感じられる一日でした。

この事業は、推進者と県行政・労働行政の協働による勤務環境改善の仕組みづくりとして、定着しつつあります。その成果は、平成26年2月7日にWLBフォローアップワークショップとして発表します。

是非ご参加ください。



KJ法にて
課題の
明確化



講義



討議



アクション
プランの
発表

平成26年度 医療安全管理者養成研修36名修了

厚生労働省は平成14年より病院および有床診療所に医療安全管理体制の整備を義務づけ、平成18年の診療報酬改定では医療安全管理者の配置を要件とした医療安全対策加算が新設されました。そこで、徳島県看護協会においても、今年度初めて医療安全管理者として実践できる看護職者等を養成するため、研修プログラム作成指針に基づく研修(40時間)を実施しました。県内29施設から36名が受講し、修了しました。医療安全の向上に活躍を期待します。



医療機関において期待される役割・責務を果たすために継続的に学習と経験をつみ、事故防止に努めます。



酸素ボンベはゆっくり開けるのよ！

【断熱圧縮とは】

断熱圧縮とは外部に熱が逃げないよう断熱してガスを圧縮すると、ガス自体の温度が上昇する現象です。

酸素ボンベ圧力が14.7MPa（150kg/cm²）のガスが調整器内に一気に進入すると、調整器内でガスが圧縮され、断熱圧縮熱により20℃だった調整器内部は約900℃以上に上昇します。

この時、調整器内部に塵、アルミ粉、油分などが存在すると発火源、可燃物となり、調整器の爆発発火につながる恐れがあります。

従って酸素ボンベのバルブを開ける際はゆっくり開ける事が重要です。

断熱圧縮熱

発火

急激に開けると



※ガスを圧縮して温度が上がる例では自転車の空気入れがあります。

ご存知
ですか？



火災や風水害等に遭われたとき

次の区分により見舞金が支給されます。

区 分	被災の程度	見舞金の額
火災の場合	家屋全焼	30,000 円以内
	家屋半焼	20,000 円以内
風水害及び震災の場合	家屋全壊	30,000 円以内
	家屋半壊	20,000 円以内
	家屋傾斜、床上浸水	10,000 円以内



※詳細については、公益社団法人徳島県看護協会例規集をご参照ください。

図書室からのお知らせ

会員の皆様へ

3月に図書室の整理をします。
23日(月)～
31日(火)まで

は閉館しますのでご協力お願いいたします。

お

し

ら

せ

編集後記

広報誌「和」が徳島の旬な看護情報をお届けできるのは会員皆様のご協力あってのことと感謝申し上げます。今後とも、よろしくお願いいたします。

事務局からのお知らせ

平成27年度 継続申請受付中！

年会費 15,000 円 { 日本看護協会費 5,000 円
徳島県看護協会費 10,000 円

お手続き方法に不明な点がありましたら、徳島県看護協会までお問い合わせください。

TEL:088-631-5544

※登録内容変更届について

入会後、登録内容（勤務先、住所、氏名等）に変更が生じましたら、「会員変更（異動届）」に記入し、FAXまたは郵送にて当会までお送りください。届出書は当会 HP よりダウンロードできます。